

平成27年度

第5回市政モニターアンケート

暴力追放運動について

北九州市市民文化スポーツ局広聴課

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
(1) 市の相談窓口の認知度	2
(2) 市の暴力追放に向けた取組みの認知度	3
(3) 活動内容の認知度	4
(4) 暴力団等から不当な要求を受けた経験の有無	5
(5) 不当な要求を受けた場合の対応	6
(6) 不当な要求を受けた場合誰(どこ)に相談するか	7
(7) 暴力追放の住民運動への協力意向	8
(8) 暴力追放の住民運動に協力したくない理由	9
(9) 暴力団を利用してのもめごと処理についての考え	10
(10) 暴力団の利用を「やむを得ない」「悪くはない」と思う理由	11
(11) 暴力団はどのようにして存在すると思うか	12
(12) 北九州のイメージについて	13
(13) 北九州市には以前と比べて変わったと思うか	14
(14) 暴力追放についての意見	15
IV 全体考察	18

I 調査の概要

調査対象者 市政モニター 149人
 回答者数 138人(回収率93%)
 調査実施日 平成27年 10月 8日から 11月2日
 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査
 調査実施課 市民文化スポーツ局広聴課 TEL582-2527
 調査依頼課 市民文化スポーツ局安全・安心相談センター TEL582-2427

II 市政モニターの構成

■ 全体 (単位:人)

区分	合計	男性	女性	備考(郵送・ネットモニターの別)
全体	149 (100.0%)	62 (41.6%)	87 (58.4%)	・郵送モニター 65人 ・ネットモニター 84人

■ 内訳

【区別】 (単位:人)

区分	合計	男性	女性
門司区	16 (10.7%)	7 (4.7%)	9 (6.0%)
小倉北区	30 (20.1%)	14 (9.4%)	16 (10.7%)
小倉南区	32 (21.5%)	15 (10.1%)	17 (11.4%)
若松区	13 (8.7%)	5 (3.4%)	8 (5.4%)
八幡東区	11 (7.4%)	3 (2.0%)	8 (5.4%)
八幡西区	38 (25.5%)	15 (10.1%)	23 (15.4%)
戸畑区	9 (6.0%)	3 (2.0%)	6 (4.0%)

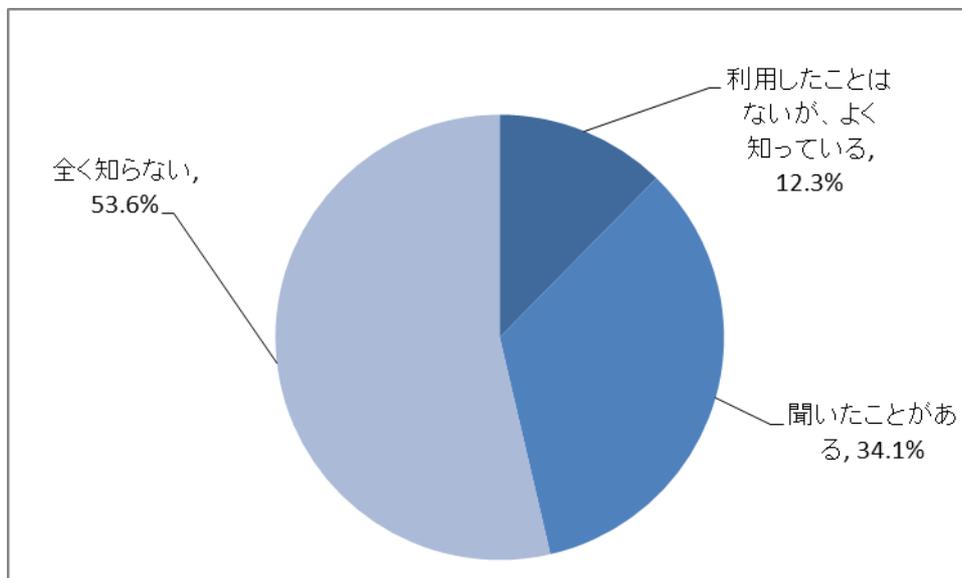
【年齢別】 (単位:人)

区分	合計	男性	女性
20歳代	20 (13.4%)	4 (2.7%)	16 (10.7%)
30歳代	24 (16.1%)	10 (6.7%)	14 (9.4%)
40歳代	26 (17.4%)	4 (2.7%)	22 (14.8%)
50歳代	23 (15.4%)	9 (6.0%)	14 (9.4%)
60歳代	34 (22.8%)	21 (14.1%)	13 (8.7%)
70歳以上	22 (14.8%)	14 (9.4%)	8 (5.4%)

※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

問1 市役所内に民事介入暴力の被害相談窓口が設置されていることを知っていますか。

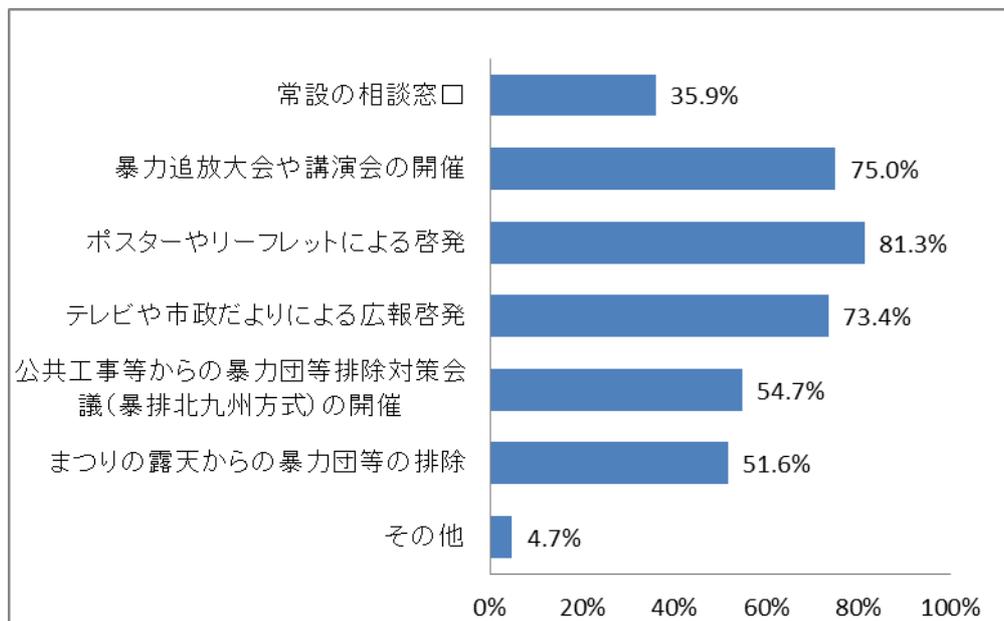


		回答者数	知っているし、利用したことがある	利用したことはないが、よく知っている	聞いたことがある	全く知らない	無回答
全体		138人	0.0%	12.3%	34.1%	53.6%	0.0%
性別	男性	58人	0.0%	13.8%	44.8%	41.4%	0.0%
	女性	80人	0.0%	11.3%	26.3%	62.5%	0.0%
年齢別	20歳代	16人	0.0%	6.3%	0.0%	93.8%	0.0%
	30歳代	24人	0.0%	8.3%	20.8%	70.8%	0.0%
	40歳代	24人	0.0%	12.5%	20.8%	66.7%	0.0%
	50歳代	22人	0.0%	13.6%	40.9%	45.5%	0.0%
	60歳代	32人	0.0%	12.5%	53.1%	34.4%	0.0%
	70歳以上	20人	0.0%	20.0%	55.0%	25.0%	0.0%
区別	門司区	16人	0.0%	12.5%	37.5%	50.0%	0.0%
	小倉北区	29人	0.0%	6.9%	37.9%	55.2%	0.0%
	小倉南区	28人	0.0%	7.1%	28.6%	64.3%	0.0%
	若松区	13人	0.0%	23.1%	30.8%	46.2%	0.0%
	八幡東区	10人	0.0%	10.0%	20.0%	70.0%	0.0%
	八幡西区	33人	0.0%	15.2%	45.5%	39.4%	0.0%
	戸畑区	9人	0.0%	22.2%	11.1%	66.7%	0.0%

「知っている」「聞いたことがある」の合計は 46.4%だった。「全く知らない」が 53.6%で、うち、年齢別では20歳代が 93.8%だった。

問2 <問1で「1」、「2」、「3」いずれかを答えた方におたずねします。>

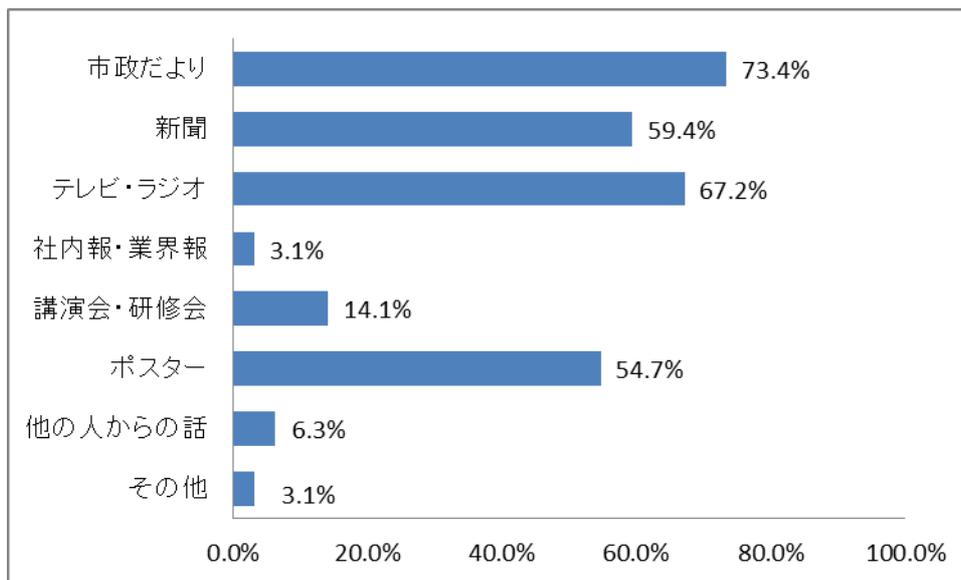
2-1市の暴力追放に向けた取り組みの中で、知っているものをいくつでも選んでください。



		回答者数	常設の相談窓口	暴力追放大会や講演会の開催	ポスターやリーフレットによる啓発	テレビや市政だよりによる広報啓発	公共工事等からの暴力団等排除対策会議(暴排北九州方式)の開催	まつりの露天からの暴力団等の排除	その他	無回答
全体		64人	35.9%	75.0%	81.3%	73.4%	54.7%	51.6%	4.7%	0.0%
性別	男性	34人	29.4%	85.3%	76.5%	73.5%	76.5%	55.9%	2.9%	0.0%
	女性	30人	43.3%	63.3%	86.7%	73.3%	30.0%	46.7%	6.7%	0.0%
年齢別	20歳代	1人	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	7人	42.9%	71.4%	71.4%	28.6%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%
	40歳代	8人	25.0%	62.5%	75.0%	75.0%	37.5%	50.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	12人	50.0%	75.0%	83.3%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	38.1%	81.0%	90.5%	85.7%	61.9%	61.9%	4.8%	0.0%
	70歳以上	15人	26.7%	73.3%	73.3%	80.0%	66.7%	60.0%	13.3%	0.0%
区別	門司区	8人	50.0%	62.5%	87.5%	62.5%	50.0%	62.5%	12.5%	0.0%
	小倉北区	13人	30.8%	76.9%	84.6%	61.5%	61.5%	53.8%	0.0%	0.0%
	小倉南区	10人	50.0%	80.0%	70.0%	90.0%	50.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	若松区	7人	57.1%	100.0%	71.4%	100.0%	100.0%	100.0%	14.3%	0.0%
	八幡東区	3人	33.3%	66.7%	100.0%	33.3%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	20人	20.0%	65.0%	80.0%	70.0%	30.0%	35.0%	5.0%	0.0%
	戸畑区	3人	33.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%

1位、2位の「ポスターやリーフレットによる啓発」「暴力追放大会や講演会の開催」は前回調査の2位、3位から順位を上げている。

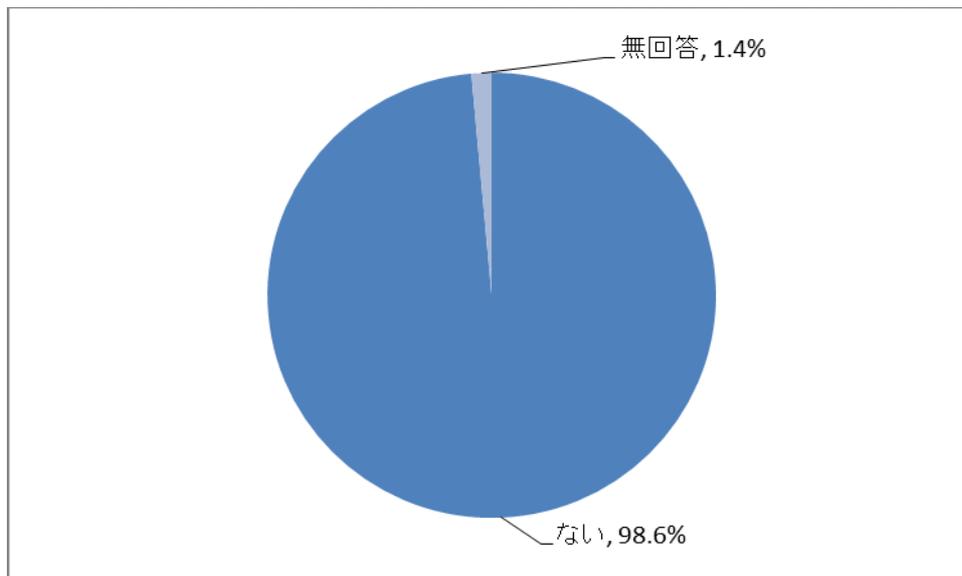
2-2 あなたは、その活動を何によって知りましたか。次の中からいくつでも選んでください。



		回答者数	市政だより	新聞	テレビ・ラジオ	社内報・業界報	講演会・研修会	ポスター	他の人からの話	その他
全体		64人	73.4%	59.4%	67.2%	3.1%	14.1%	54.7%	6.3%	3.1%
性別	男性	34人	76.5%	73.5%	85.3%	2.9%	14.7%	52.9%	2.9%	2.9%
	女性	30人	70.0%	43.3%	46.7%	3.3%	13.3%	56.7%	10.0%	3.3%
年齢別	20歳代	1人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	7人	57.1%	57.1%	57.1%	0.0%	0.0%	57.1%	14.3%	0.0%
	40歳代	8人	50.0%	25.0%	75.0%	0.0%	12.5%	37.5%	0.0%	0.0%
	50歳代	12人	66.7%	58.3%	25.0%	8.3%	8.3%	75.0%	16.7%	0.0%
	60歳代	21人	90.5%	66.7%	66.7%	0.0%	23.8%	52.4%	0.0%	4.8%
	70歳以上	15人	80.0%	73.3%	100.0%	6.7%	6.7%	46.7%	6.7%	6.7%
区別	門司区	8人	75.0%	50.0%	75.0%	0.0%	12.5%	62.5%	0.0%	0.0%
	小倉北区	13人	53.8%	76.9%	76.9%	7.7%	15.4%	76.9%	0.0%	0.0%
	小倉南区	10人	80.0%	50.0%	60.0%	0.0%	10.0%	60.0%	10.0%	10.0%
	若松区	7人	100.0%	71.4%	57.1%	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%
	八幡東区	3人	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	20人	70.0%	50.0%	65.0%	0.0%	15.0%	45.0%	5.0%	0.0%
	戸畑区	3人	66.7%	66.7%	100.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%

「市政だより」と回答した人が1位で73.4%、続いて2位が「テレビ・ラジオ」の67.2%、「新聞」が3位で59.4%となった。

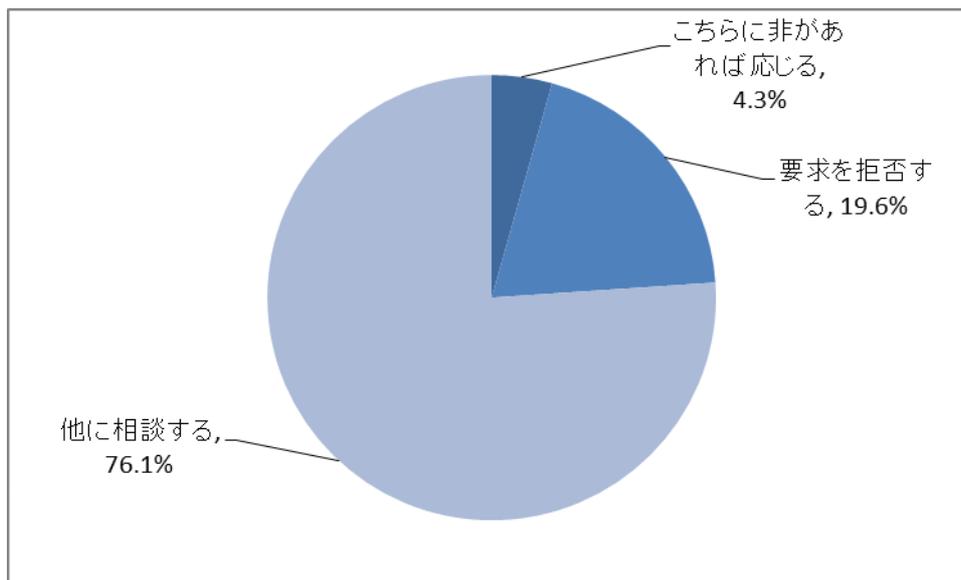
問3 あなた自身やあなたの家族・会社が、過去5年間に北九州市内において暴力団から「ゆすり」「たかり」など、不当な要求を受けたことがありますか。また、受けたことがある方は、いつ頃ですか



		回答者数	ある	ない	無回答
全体		138人	0.0%	98.6%	1.4%
性別	男性	58人	0.0%	96.6%	3.4%
	女性	80人	0.0%	100.0%	0.0%
年齢別	20歳代	16人	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	24人	0.0%	100.0%	0.0%
	40歳代	24人	0.0%	100.0%	0.0%
	50歳代	22人	0.0%	100.0%	0.0%
	60歳代	32人	0.0%	96.9%	3.1%
	70歳以上	20人	0.0%	95.0%	5.0%
	区別	門司区	16人	0.0%	100.0%
小倉北区		29人	0.0%	96.6%	3.4%
小倉南区		28人	0.0%	100.0%	0.0%
若松区		13人	0.0%	100.0%	0.0%
八幡東区		10人	0.0%	100.0%	0.0%
八幡西区		33人	0.0%	97.0%	3.0%
戸畑区		9人	0.0%	100.0%	0.0%

「ある」と答えた人は、前回調査と同様で0人だった。

問4 あなたは暴力団などから不当な要求があった場合、どのように対応しますか。



		回 答 数	要求に応じる	要求が過少であれば応じる	こちらに非があれば応じる	要求を拒否する	他に相談する	その他	無回答
全体		138人	0.0%	0.0%	4.3%	19.6%	76.1%	0.0%	0.0%
性別	男性	58人	0.0%	0.0%	6.9%	25.9%	67.2%	0.0%	0.0%
	女性	80人	0.0%	0.0%	2.5%	15.0%	82.5%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳代	16人	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%	81.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	24人	0.0%	0.0%	8.3%	12.5%	79.2%	0.0%	0.0%
	40歳代	24人	0.0%	0.0%	0.0%	20.8%	79.2%	0.0%	0.0%
	50歳代	22人	0.0%	0.0%	9.1%	22.7%	68.2%	0.0%	0.0%
	60歳代	32人	0.0%	0.0%	6.3%	18.8%	75.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	20人	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	16人	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%
	小倉北区	29人	0.0%	0.0%	6.9%	20.7%	72.4%	0.0%	0.0%
	小倉南区	28人	0.0%	0.0%	7.1%	14.3%	78.6%	0.0%	0.0%
	若松区	13人	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	84.6%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	0.0%	0.0%	10.0%	30.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	33人	0.0%	0.0%	3.0%	24.2%	72.7%	0.0%	0.0%
	戸畑区	9人	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%

1位の「他に相談する」が76.1%で、2位の「要求を拒否する」が19.6%だった。「要求に応じる」「要求が過少であれば応じる」が共に0%、「こちらに非があれば応じる」が4.3%だった。

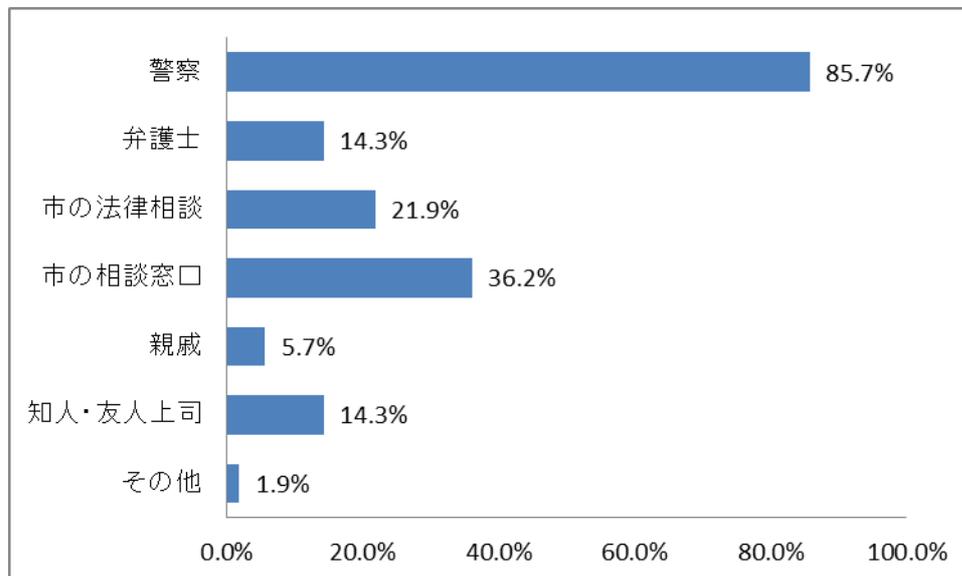
<問5は、問4で「1要求に応じる」と答えた方におたずねします>

問5 要求に応じるのは何故ですか。1つだけ選んでください。

※「要求に応じる」と答えた人は0人だったので、該当なし

<問6は、問4で「5他に相談する」と答えた方におたずねします>

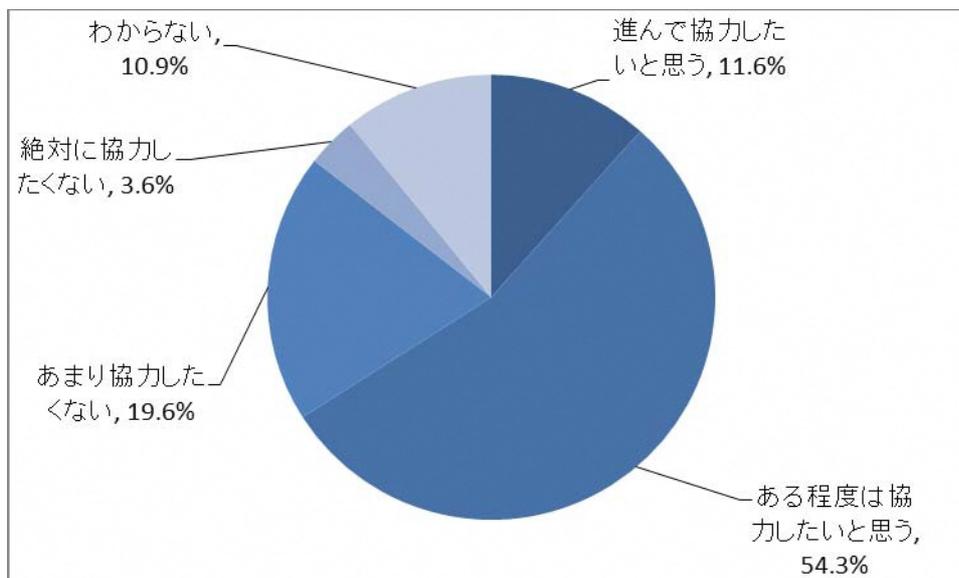
問6 そのことを誰(どこ)に相談しますか。次の中からいくつでも選んでください。



		回答者数	警察	弁護士	市の法律相談	市の相談窓口	親戚	知人・友人上司	その他	無回答
全体		105人	85.7%	14.3%	21.9%	36.2%	5.7%	14.3%	1.9%	0.0%
性別	男性	39人	89.7%	12.8%	25.6%	35.9%	2.6%	15.4%	0.0%	0.0%
	女性	66人	83.3%	15.2%	19.7%	36.4%	7.6%	13.6%	3.0%	0.0%
年齢別	20歳代	13人	61.5%	7.7%	0.0%	15.4%	15.4%	15.4%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	73.7%	10.5%	5.3%	5.3%	5.3%	21.1%	5.3%	0.0%
	40歳代	19人	89.5%	21.1%	26.3%	26.3%	10.5%	10.5%	5.3%	0.0%
	50歳代	15人	100.0%	6.7%	13.3%	40.0%	6.7%	20.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	24人	87.5%	12.5%	41.7%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	70歳以上	15人	100.0%	26.7%	33.3%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14人	85.7%	14.3%	21.4%	14.3%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%
	小倉北区	20人	90.0%	5.0%	30.0%	35.0%	15.0%	15.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	22人	90.9%	13.6%	18.2%	40.9%	0.0%	13.6%	0.0%	0.0%
	若松区	11人	90.9%	27.3%	18.2%	36.4%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%
	八幡東区	6人	66.7%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
	八幡西区	25人	84.0%	16.0%	20.0%	48.0%	8.0%	16.0%	4.0%	0.0%
	戸畑区	7人	71.4%	28.6%	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%

「警察」と答えた人が 85.7%で1位である。「市の相談窓口」は 36.2%で警察に次いで2位であった。

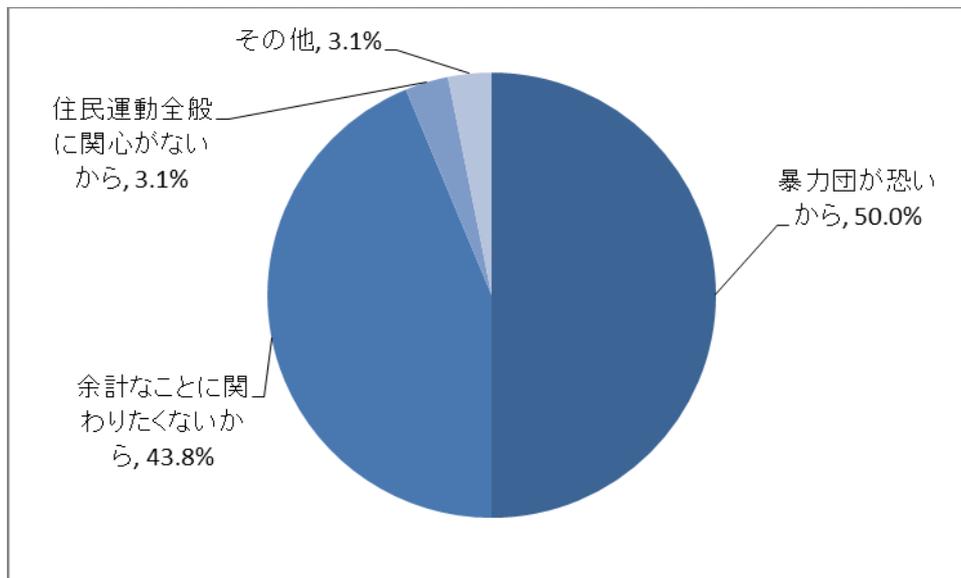
問7 あなたの住んでいるところで暴力追放の住民運動が起きたら、あなたは協力したいと思いますか。1つだけ選んでください。



		回答者数	進んで協力したいと思います	ある程度は協力したいと思います	あまり協力したくない	絶対に協力したくない	わからない	無回答
全体		138人	11.6%	54.3%	19.6%	3.6%	10.9%	0.0%
性別	男性	58人	22.4%	55.2%	15.5%	1.7%	5.2%	0.0%
	女性	80人	3.8%	53.8%	22.5%	5.0%	15.0%	0.0%
年齢別	20歳代	16人	0.0%	12.5%	37.5%	18.8%	31.3%	0.0%
	30歳代	24人	8.3%	50.0%	29.2%	4.2%	8.3%	0.0%
	40歳代	24人	4.2%	62.5%	25.0%	4.2%	4.2%	0.0%
	50歳代	22人	13.6%	72.7%	4.5%	0.0%	9.1%	0.0%
	60歳代	32人	15.6%	65.6%	6.3%	0.0%	12.5%	0.0%
	70歳以上	20人	25.0%	45.0%	25.0%	0.0%	5.0%	0.0%
区別	門司区	16人	18.8%	62.5%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%
	小倉北区	29人	13.8%	44.8%	27.6%	6.9%	6.9%	0.0%
	小倉南区	28人	7.1%	57.1%	14.3%	7.1%	14.3%	0.0%
	若松区	13人	15.4%	38.5%	30.8%	0.0%	15.4%	0.0%
	八幡東区	10人	10.0%	40.0%	40.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	33人	9.1%	66.7%	9.1%	3.0%	12.1%	0.0%
	戸畑区	9人	11.1%	55.6%	22.2%	0.0%	11.1%	0.0%

「進んで協力したい」「ある程度は協力したい」の合計が前回調査の 68.8%から 65.9%と減少した。また、「あまり協力したくない」「絶対に協力したくない」の合計が前回調査の 19.6%から 23.2%と増加した。

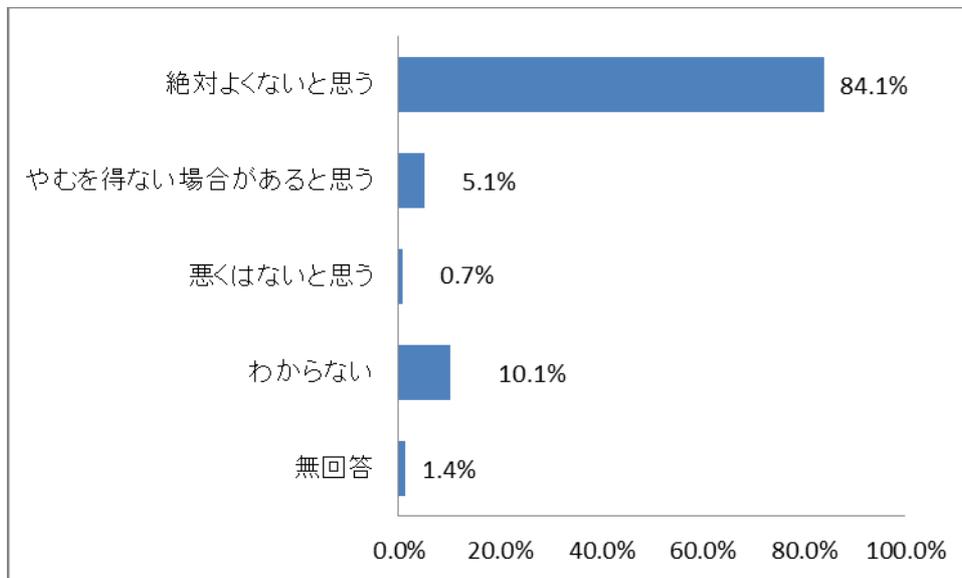
<問8は、問7で「3あまり協力したくない」又は「4絶対に協力したくない」と答えた方におたずねします>
 問8 協力したくないのは何故ですか。1つだけ選んでください。



		回答者数	暴力団が怖いから	余計なことに関わりたくないから	住民運動全般に関心がないから	その他
全体		32人	50.0%	43.8%	3.1%	3.1%
性別	男性	10人	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	女性	22人	45.5%	45.5%	4.5%	4.5%
年齢別	20歳代	9人	44.4%	33.3%	11.1%	11.1%
	30歳代	8人	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%
	40歳代	7人	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
	50歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	2人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	5人	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	2人	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	10人	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%
	小倉南区	6人	33.3%	50.0%	0.0%	16.7%
	若松区	4人	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	4人	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	4人	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	2人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「暴力団が怖いから」が50%で、「余計なことに関わりたくないから」が43.8%で、「住民運動全般に関心がないから」が3.1%だった。

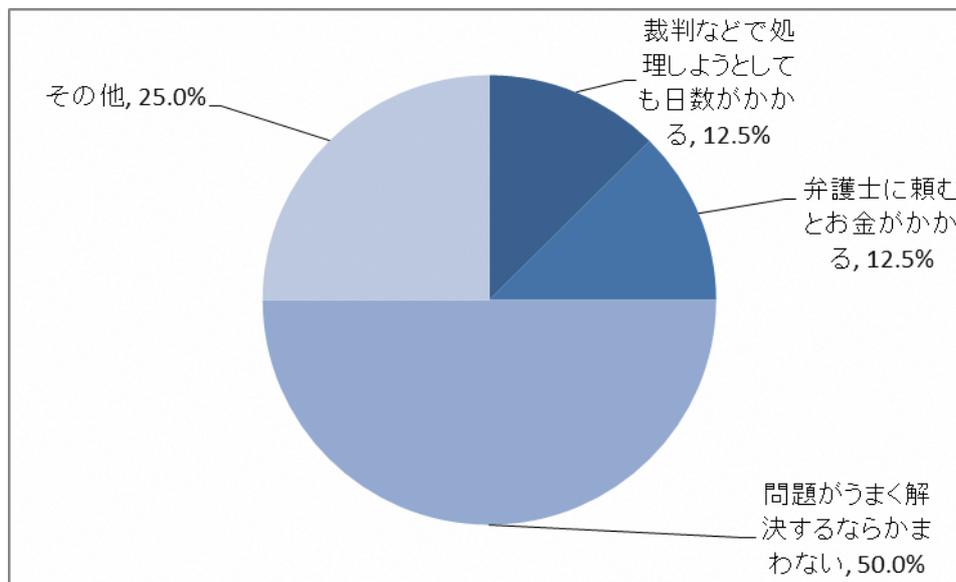
問9 暴力団などを利用して、もめごとの処理を行う人がいますが、あなたはこのようなことについてどう考えますか。1つだけ選んでください。



		回答者数	絶対よくないと思う	やむを得ない場合があると思う	悪くはないと思う	わからない	無回答
全体		138人	84.1%	5.1%	0.7%	10.1%	1.4%
性別	男性	58人	86.2%	6.9%	0.0%	6.9%	0.0%
	女性	80人	82.5%	3.8%	1.3%	12.5%	2.4%
年齢別	20歳代	16人	68.8%	0.0%	6.3%	25.0%	0.0%
	30歳代	24人	87.5%	8.3%	0.0%	4.2%	2.6%
	40歳代	24人	79.2%	4.2%	0.0%	16.7%	0.0%
	50歳代	22人	86.4%	4.5%	0.0%	9.1%	0.0%
	60歳代	32人	87.5%	6.3%	0.0%	6.3%	2.7%
	70歳以上	20人	90.0%	5.0%	0.0%	5.0%	0.0%
区別	門司区	16人	87.5%	0.0%	0.0%	12.5%	4.8%
	小倉北区	29人	82.8%	6.9%	0.0%	10.3%	0.0%
	小倉南区	28人	75.0%	7.1%	3.6%	14.3%	3.3%
	若松区	13人	84.6%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%
	八幡東区	10人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	33人	81.8%	6.1%	0.0%	12.1%	0.0%
	戸畑区	9人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「絶対によくない」が 84.1%で、「やむを得ない場合がある」と「悪くない」が合計で 5.8%だった。

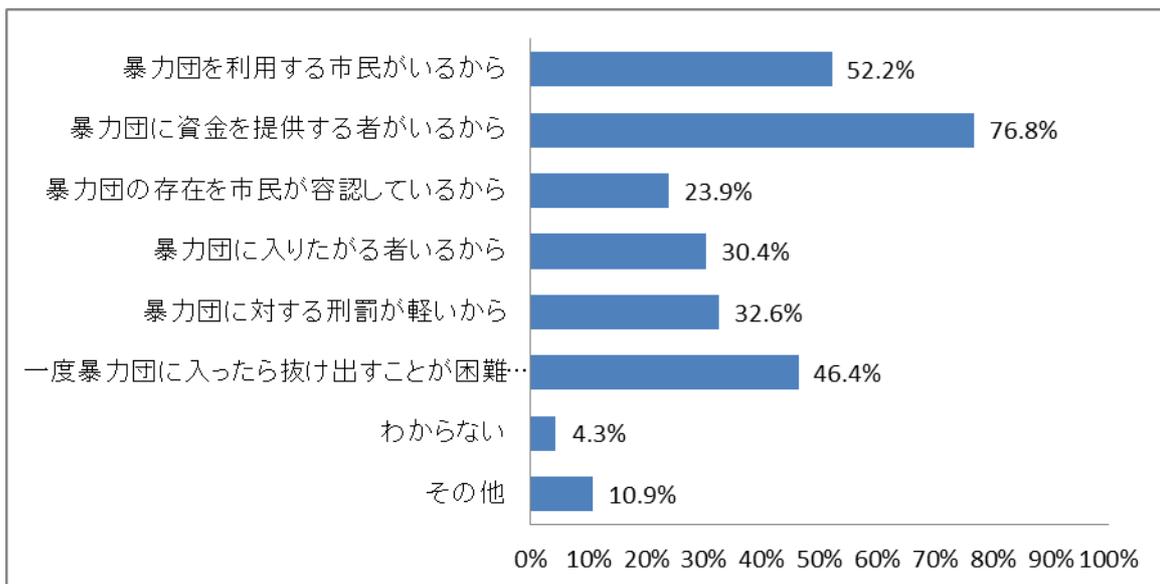
＜問10は、問9で「2やむを得ない場合があると思う」又は「3悪くはないと思う」と答えた方におたずねします＞
 問10 そう思う理由は何ですか。1つだけ選んでください。



		回答者数	裁判などで処理しようとしても日数がかかる	弁護士に頼むとお金がかかる	特に悪いこととは思わない	問題がうまく解決するならかまわない	その他	無回答
全体		8人	12.5%	12.5%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%
性別	男性	4人	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%
	女性	4人	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	2人	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	40歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	2人	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	70歳以上	1人	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	2人	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	3人	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
	若松区	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	2人	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	戸畑区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問9で「やむを得ない場合がある」「悪くはない」と答えた人のうち、その理由として「問題がうまく解決するならかまわない」と答えた人が50%だった。

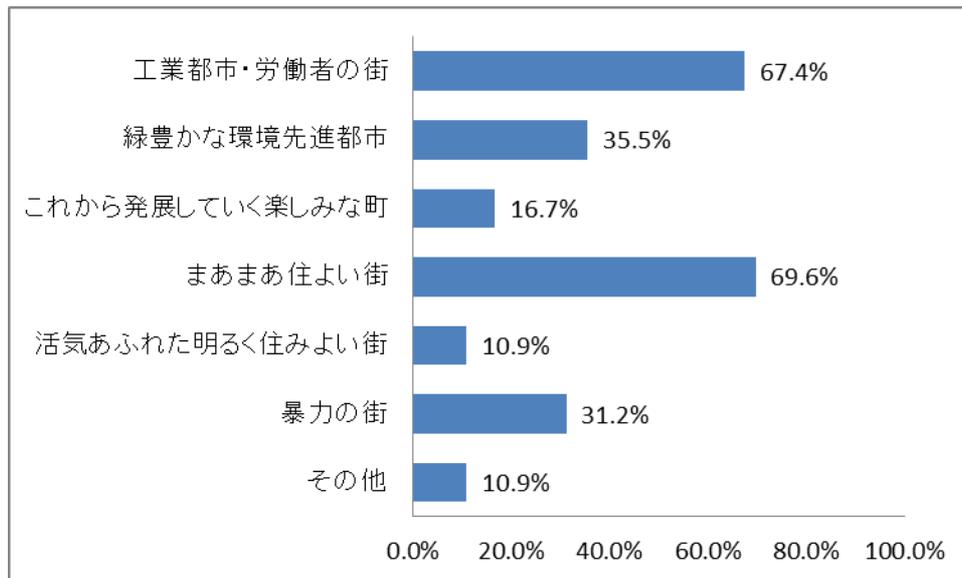
問11 あなたは、暴力団はどうして存在するのだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。



		回答者数	暴力団を利用する市民がいるから	暴力団に資金を提供する者がいるから	暴力団の存在を市民が容認しているから	暴力団に入りたがる者いるから	暴力団に対する刑罰が軽いから	一度暴力団に入ったら抜け出すことが困難だから	わからない	その他	無回答
全体		138人	52.2%	76.8%	23.9%	30.4%	32.6%	46.4%	4.3%	10.9%	0.0%
性別	男性	58人	62.1%	70.7%	27.6%	24.1%	37.9%	32.8%	3.4%	13.8%	0.0%
	女性	80人	45.0%	81.3%	21.3%	35.0%	28.8%	56.3%	5.0%	8.8%	0.0%
年齢別	20歳代	16人	37.5%	68.8%	6.3%	12.5%	6.3%	18.8%	6.3%	12.5%	0.0%
	30歳代	24人	45.8%	70.8%	16.7%	37.5%	25.0%	50.0%	4.2%	8.3%	0.0%
	40歳代	24人	45.8%	75.0%	37.5%	58.3%	45.8%	45.8%	0.0%	12.5%	0.0%
	50歳代	22人	50.0%	72.7%	31.8%	18.2%	22.7%	50.0%	4.5%	4.5%	0.0%
	60歳代	32人	62.5%	87.5%	18.8%	25.0%	31.3%	50.0%	6.3%	15.6%	0.0%
	70歳以上	20人	65.0%	80.0%	30.0%	25.0%	60.0%	55.0%	5.0%	10.0%	0.0%
区別	門司区	16人	56.3%	87.5%	12.5%	18.8%	37.5%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%
	小倉北区	29人	55.2%	58.6%	20.7%	20.7%	31.0%	31.0%	6.9%	20.7%	0.0%
	小倉南区	28人	50.0%	75.0%	32.1%	32.1%	39.3%	46.4%	3.6%	10.7%	0.0%
	若松区	13人	53.8%	76.9%	15.4%	23.1%	38.5%	53.8%	15.4%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	60.0%	90.0%	20.0%	40.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	33人	51.5%	81.8%	36.4%	42.4%	30.3%	48.5%	3.0%	12.1%	0.0%
	戸畑区	9人	33.3%	88.9%	0.0%	33.3%	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%	0.0%

「暴力団に資金を提供する者がいるから」「暴力団を利用する市民がいるから」「暴力団から抜け出すことが困難だから」が前回同様1位、2位、3位となった。

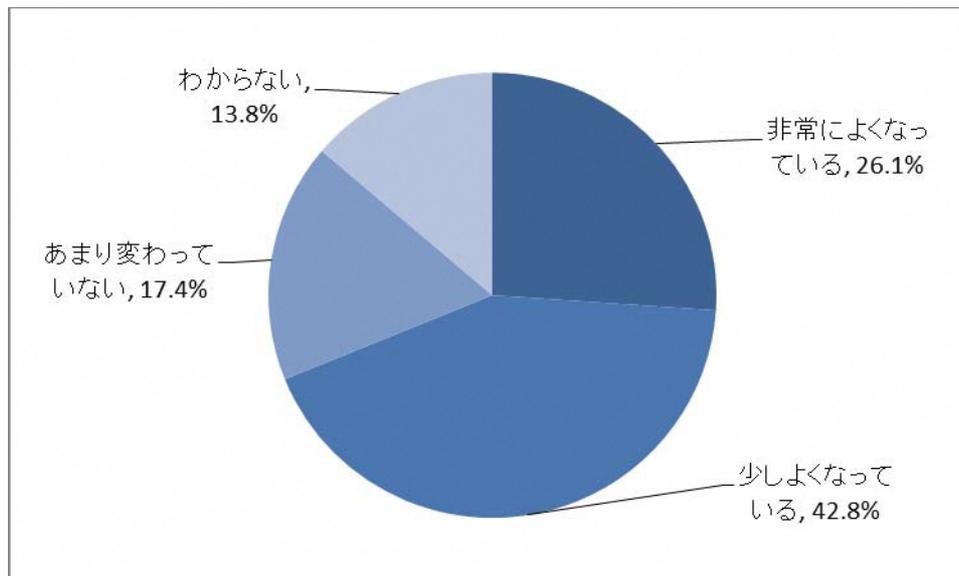
問12 あなたは、北九州市に対してどんな都市イメージをもっていますか。次の中からいくつでも選んでください。



		回答者数	工業都市・労働者の街	緑豊かな環境先進都市	これから発展していく楽しみな町	まあまあ住よい街	活気あふれた明るく住みよい街	暴力の街	その他	無回答
全体		138人	67.4%	35.5%	16.7%	69.6%	10.9%	31.2%	10.9%	0.0%
性別	男性	53人	75.9%	34.5%	15.5%	69.0%	10.3%	32.8%	10.3%	0.0%
	女性	85人	61.3%	36.3%	17.5%	70.0%	11.3%	30.0%	11.3%	0.0%
年齢別	20歳代	9人	56.3%	18.8%	0.0%	56.3%	12.5%	43.8%	0.0%	0.0%
	30歳代	39人	75.0%	12.5%	16.7%	75.0%	8.3%	41.7%	16.7%	0.0%
	40歳代	21人	66.7%	41.7%	25.0%	62.5%	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%
	50歳代	17人	40.9%	45.5%	22.7%	59.1%	4.5%	18.2%	4.5%	0.0%
	60歳代	37人	78.1%	46.9%	12.5%	78.1%	9.4%	28.1%	9.4%	0.0%
	70歳以上	15人	80.0%	40.0%	20.0%	80.0%	15.0%	25.0%	15.0%	0.0%
区別	門司区	21人	75.0%	50.0%	25.0%	62.5%	18.8%	31.3%	18.8%	0.0%
	小倉北区	27人	75.9%	24.1%	10.3%	65.5%	3.4%	44.8%	3.4%	0.0%
	小倉南区	30人	53.6%	39.3%	10.7%	71.4%	21.4%	32.1%	14.3%	0.0%
	若松区	9人	61.5%	23.1%	30.8%	69.2%	0.0%	30.8%	7.7%	0.0%
	八幡東区	12人	60.0%	30.0%	0.0%	80.0%	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	32人	75.8%	33.3%	27.3%	78.8%	6.1%	24.2%	12.1%	0.0%
	戸畑区	7人	55.6%	66.7%	0.0%	44.4%	22.2%	22.2%	11.1%	0.0%

「まあまあ住みよい街」が 69.6%で1位となった。また、「暴力の街」が前回調査から増加している。

問13 北九州市では、警察その他の関係機関・団体と連携し、暴力追放運動に積極的に取り組んでいますが、以前と比べて変わったと思いますか。



		回答者数	非常によくなっている	少しよくなっている	あまり変わっていない	悪くなっている	わからない	無回答
全体		138人	26.1%	42.8%	17.4%	0.0%	13.8%	0.0%
性別	男性	53人	31.0%	39.7%	19.0%	0.0%	10.3%	0.0%
	女性	85人	22.5%	45.0%	16.3%	0.0%	16.3%	0.0%
年齢別	20歳代	9人	25.0%	31.3%	18.8%	0.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	39人	12.5%	45.8%	20.8%	0.0%	20.8%	0.0%
	40歳代	21人	20.8%	45.8%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%
	50歳代	17人	31.8%	50.0%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	37人	37.5%	37.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%
	70歳以上	15人	25.0%	45.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%
区別	門司区	21人	25.0%	56.3%	6.3%	0.0%	12.5%	0.0%
	小倉北区	27人	34.5%	41.4%	13.8%	0.0%	10.3%	0.0%
	小倉南区	30人	21.4%	42.9%	28.6%	0.0%	7.1%	0.0%
	若松区	9人	7.7%	38.5%	30.8%	0.0%	23.1%	0.0%
	八幡東区	12人	30.0%	40.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	32人	24.2%	45.5%	12.1%	0.0%	18.2%	0.0%
	戸畑区	7人	44.4%	22.2%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%

「よくなっている」の合計が68.9%で、全体の6割以上を占めている。また「悪くなっている」は0%で前回から減少した。

問14 暴力追放について、その他ご意見がありましたらご自由にご記入ください。

75件の記入があり、主なものは次のとおりです。

- 工藤会の壊滅に県警が取り組んでいます。また何処かの暴力団がきて抗争でも始まるんじゃないかと心配です。
- 今後も暴力追放の手をゆるめることなくおこなってほしい。
- 必要悪とされている方々の意識を変えることが大切だと思います。
- 一過性ではなく粘り強い対応を！
- 暴力団関係者が起こした事件に対する処罰は、一般人より重く設定する。事件を起こす都度、ICチップを身体に埋め込み行動の監視を行う。(警察で管理する)
- 今はまだよくわかりません。
- 犯罪が本当に多い。警察だけでなく、街全体を安心して暮らせるようにしてほしい。北九州は本当にやる気がある街。頑張してほしい。
- 小倉の街が、以前と違って、怖い感じがしなくなりました。
- そういえば最近、パトカーの巡回が若干、少なくなっているような気がします。暴力の抑止力や防犯の為には、これからも巡回を強化して頂きたいです。
- 北九州市が委託するゴミ収集や、産廃業者、建設業者など、暴力団関係の会社でないか、きちんと調べ選別しているのでしょうか。
- 福岡県警の暴追の取り組みが功を奏していると思います。暴力団を抜きたい人への支援と、暴力団を生まない非行少年への支援を充実させることがこれからは特に重要になってくるのでは？
- 青少年を絶対に暴力団に入れさせないために学校卒業時に就職や進学への道がみつからない若者には学校だけではなく周りから市からも生活への道筋のフォローが必要だと思います。例えば県による職業訓練の様に市独自でカリキュラムを組み、知識・経験など得て将来社会に出るとき自信を持って仕事社会に活かすことを目的にするものです。カリキュラム例として(施設や工場見学(車・製鉄他高齢者
- 暴力団を表面に出さない組員が市民生活に入り込んでいる夜の小倉は恐ろしいイメージ。中学、高校の生徒の中の暴力団予備軍らしき生徒はどうにかならないか、教育委員会の協力、先生方の協力も大切と思う。
- 地域外の人に北九州のことを聞くと、やはり「治安が悪い」というイメージを持っている人は多いです。そういうイメージを持たれる要素を無くす取り組みは続けていって欲しいなと思います。
- 暴力団壊滅が麻薬の蔓延防止につながれば良いと思います
- 警察は事が起こらないと動けないと回答するところが間違っていると思う。これでは、みんな被害に遭うと思う。
- 最近の取締の積極性に対しては大変評価している。本部長のやる気に更に期待。少しでも手を緩めると増殖するのが暴力団と思う。やり続ける事が大切だと思う。
- 暴追活動については自分自身が少年補導員を嘱託されている為にその活動の一環として様々な所で暴追活動に自主的に参加している。毎月18日に行われている本市・警察による統一行動に参加している。勿論、本年8月にメディアドームで開催された「北九州市暴力追放総決起大会」へも参加し決意を新たにしたい。本市では県警本部と共に昨年から工藤会幹部の相次ぐ逮捕を始め暴力団壊滅へ向けカウントダウンの為の作戦が展開している。機会があるごとに話を聞く県警本部の吉田尚正本部長、小倉北署の原田大助署長を先頭に警察幹部の並々ならぬ決意のもとに行われる作戦に溜飲が下がる。これらの一致協力した行動は他県、他市の模範となるもので一市民としても頼もしく思える。今後とも暴力団壊滅までの行動は一切の妥協を許すことなく突き進んでほしいと思う。他県、他市の居住者から「北九州市は暴力団が居なくなり良かったね。」と言われる前に全市民が「暴力団の居ない住みやすい街になった。」と実感できるその日を楽しみに官民一体となったゆるぎない活動を継続してほしいと思う。
- 被害者が勇気を出して、被害を警察などに届け出てその結果、組員などが逮捕されることは多くなったと思う。時折「不起訴や起訴猶予になった」との報道を目にするが、関係した市民は大変心配な事だろう。報復などを受けないように十分なケアをしてほしい。

- 近くの市民センターでは暴力団の家が近い為関係者の目にとまるのを恐れ、暴追法やその関係ポスターすら貼っていない。市からも要請して、自治連合会、まちづくり協などが率先して暴力追放などの機運を高める必要があると思います。
- 市の暴力追放についての取組みはよくなされ、一般市民にも段々と理解されてきていると思う。
- もっと厳しく強化すべきだと思う。県外の人達からは北九州は怖い街と言われる事がある。
- 排除しようとするだけでなく、社会復帰率が低いようなので、暴力団員だった方への積極的な支援が重要だと思う。
- 北九州は海や山が近く、自然と商業が上手く繋がって住みやすい都市だと思います。しかし暴力団、シンナー吸引など少年検挙率が全国上位で、怖いイメージがある事も確かです。義務教育において、勤勉の大切さや甘い言葉に誘われない強い志を伝え、北九州市民として誇りが持てるよう学習する時間を設けるべきです。
- 暴力団追放するだけでなく、暴力団に入る人や、現在入っている人の今後の生活を考え支援し暴力団をなくす取り組みをして欲しいと思います。生活に困っているひとや、親子関係がうまくいってない人達が暴力団に入ってしまうように、社会的支援が必要だと思います。人は誰かと関わらないと思いやりの心など育たないと思います。子育て支援を充実させて親のネグレクトなどを見過ごさないようにして欲しいと思います。
- 北九州から暴力団の多いところだというイメージがなくなってほしいと思っています。
- 近くに暴力団の自宅があり黒い洋服、黒い車を何台も見ることがあり怖い思いをした事がありました。北九州市の取り組みで最近では安心して運転ができます。感謝しています。
- 身近におこっていないだけで、テレビや新聞では依然と暴力が横行しているこの世の中を、変えられると信じて活動に参加していきたいとは思いますが目を背けてきたこの問題ですが、このアンケートであらためて行動することの大切さに気付くきっかけにしようと思います。ありがとうございました。
- 北九州市を含む福岡県は殺傷事件等が多く報道されている。そのため暴力追放運動についても全国でもかなり有名で、北九州市民も団結して力を入れており、クリーンなイメージになりつつあると思う。
- 追放だけでなく、新たに加入しようとする者の遮断(社会全体で暴力・貧困を縮小する仕組み・教育)から取り組んで欲しい。
- 警察は何か事が起こらなければ助けてくれない。私は問9で2を選んだか、私達の様なもの、警察に知り合いもなく、相談してもドラマのような事はないとおもっている。それでやむなしと思いいいことだとわかっているが、問9の2を選ぶ事もあるのではないか。
- 指定暴力団の工藤会の幹部が相当数逮捕されてやっと静かになったという印象をもっています。今は報道で資金源を断つことを重点的に行っているとありましたが、この成功を祈らずには、おられません。一日も早い結果が出ることを期待しています。
- 登山で添田町の施設に100人集まったとき「北九州市から来ました」と言うと真っ先に言われたのは「暴力団」で大変ですね。との指摘があった。環境先進都市などの話は全くでなかったが。北九州市にはそう言うような風土が今いまだに残っていると思う。例をあげれば無法松の一生、無法松酒造というような無法松をたたるような内容の歌・物などがいまだには残っているが信じられないようなことです。
- 警察本部長が移動のたびに暴力追放に取り組むと記者会見しているが、北九州、福岡はいっこうに変わっていない。真剣に取り組んでいない様だ。
- 取り締まる警察官が地元出身だけでは問題が有ると思う。顔見知りの暴力団員も居るだろうし退職後の居住地が北九州市周辺では報復も心配になるのではないだろうか。”
- 北九州市の暴力団への取組みは有名だが、市外の暴力団に関しては何もされていないように感じる。私の母校は北九州市立大学だが、社会人学生が宮若市の暴力団で、その暴力団と議会の癒着の話やゼミの飲み会などで、本人がしているのをきいて、怖かった。政治と暴力団が結びついているなら、どちらも大きな力だから、しょうがないよな、と思っている。
- ニュースではたまに暴力団関連を見かけますが、自分の日常生活に影響はないのであまり実感がわきません。でも安心して暮らせるように追放できれば良いなあ～と思います。子育て中なので特にそう思います。
- 暴力団を考えると、その本人また周囲の家族など身近な人間を含め「人権」について気がかりに思います。

暴力団という固有名詞ではなく、一人一人の人間について、人間の一人として、悲しく寂しく思う。童話「北風と太陽」のような展開にはならないものかと、考えます。暴力追放を唱える側と、そんなことに耳を貸そうとはしない(だろう)側との対決ではなく、歴史でいえば「無血開城」のような平和的なやり方が、もっと人間的な根本的な解決方法はないだろうかと考えます。理想と現実、平和解決に至るには人間としての心からの対話が相手の心の塊をほぐすのではないのでしょうか。

- 昨年他県から引っ越してきましたが、パトカーがとて多いと感じました。福岡市など北九州市外の県内にも住んだことがあります、やはり多いです。それだけ警察のかたも暴力追放には力を入れていると思います。
- 暴力が蔓延る世の中を、なんとかしてほしい
- 追放にだけ力を入れるのではなく、暴力団をやめた人の受け入れ態勢に力を入れる必要もあるし、もっとさかのぼれば暴力団に入る人を断絶する必要があると思う。子供たちが平等に(貧しくても)教育受けられるようにしなければならないのでは。負のスパイラルを止めないと。定職につけない若者が安易な犯罪を起こす可能性があるとあります。
- 直接被害を受けたことが無いから、例えば拳銃騒ぎのニュースをTVで観てもまるでドラマの様で現実味がありません。「あの人ヤクザよ」と聞くことがあっても、その人は紳士で仕事もしており言葉遣いも丁寧で世間という暴力団とは違うイメージです。それが騙されているといえればそれまでですが、個人個人なら人間として悪くない人もいます。集団化すると問題行動につながるのでしょうか？世間しらずで申し訳ありません。
- 魚町を2人組みで歩いている警察官やパトカー内の警察官など話しながら「笑顔で楽しそうでいいね」と言うのが、私達の感想です。何か事件があると上の方はマスコミ等で頭を下げていますが、下の方の皆さんはどうでしょうか。どの仕事も皆責任を持って努め(勤め)ています。(安い給料でも)市民を守ると言う意識をもって取り組んで欲しいです。
- いいことと思います。
- 暴力団の資金源を断つこと
- ①一般常識人が行う暴力は追放ではなく、慎む方向で努力すべき。②アウトローの暴力団が行う暴力は社会秩序を乱すので、暴力団は社会から排除すべきである。③問13の市政治団体、警、関係機関、その団体が安易な裏手として利用、育て上げたのではと推察する。餌がなくなれば町に出没するは当然の事。暴力団員も1人間です。生命の維持は憲法でも保障している。救済方法も筆を先行して追放しなければ。
- 北九州が安全な街になるように市民は暴力追放運動を一致団結していかねばいけないと思います。
- 特にありませんが、市と警察が一体となって本腰を入れて取り組まれている姿勢が市民に伝わってきています。今後共力を抜かず頑張ってください。
- 問13と同様になりますが、非常によくなって来ていると思います。以前はどの地域にいても必ず在住する方がいましたけれど、各地域の方の協力、市、県、口上げての力が成果とあります。交通事故や民事に今までにそういう人間に相談や利用する人間がいる。利用するもの・相談を受けるもの双方を罰してしかないとなくならない
- 特定の地域に今も居すわっている。彼らにも行き先を設けてやり、受け皿のある排除を行う方が良いと考える。
- 暴力追放運動は是非やらないといければならないと思うがそれをやったことにより、仕返しを受けるなどの被害が懸念される。生命の危険を冒してまで、運動をやるかと言うと尻込みしてしまう。
- 北九州市外の知人から「暴力団の街」と言われることはありますが、普段生活している中で私は暴力団等を身近に感じません。北九州での暴力団関係の事件のニュースをテレビで見ても、遠い世界の話のように感じているというのが正直なところ。実際に身近に被害を受けたことのある人にとっては、大変重要な問題なのだろうと思います。
- すぐには暴力団壊滅というのは無理だと思うが、全く関係のない市民を巻き込まないでほしいと思う。
- 市内にパトカーが多数巡回しているからいざというときに安心できる。
- 完全否定するわけではないけど、一般市民に手をだすような暴力団は存在してはいけないとおもうので、頑張ってください。
- 地域住民、企業、行政機関、学校、各種団体等の連携、連絡協議の強化推進

- この取り組みの別の意味での中心的要素は青少年の健全育成にほかなりません。各組織がバラバラに取り組んでいます。現在折尾地区、折尾警察にお願いして、北九州市のモデル的取り組みをしてほしいと要望しています。青少年の健全育成は、人的な供給をたつ。最大の取組みであると信じています。御検討のほど。
- 他県警から応援を得て暴力団追放に尽力しており、一日も早く県警だけで対応できるようになってもらいたい
- 警察がフォローをしっかりしてくれないと安心して協力出来ない(協力磨る気が有っても安心できない)
- 暴力団員の本当の生活振りは知らないが、テレビ、映画等で知る限り仲間内での義理・人情にとても熱く強い人の様に感じる。この強い力を一般市民生活や活動に生かせたら素晴らしいリーダーになると思う。そこで働く場や生活する場を積極的に支援して行く事により暴力団員も減少してゆくのではないかと思う。
- 1.小さな暴力を未然に防ぐ。2.失業率をゼロに近くする。3.暴力団等排除広報を続ける。4.警察力を強く(人員の数を増やす)
- 暴力団はどここの地域でもあるが、自分の身の回りで、今まで遭遇したこともないし、事件とかも聞いたことがないので、ちょっとピンと来ないのが現状です
- 身近に暴力団の存在を感じてはいないが、ニュースなどで北九州市民が暴力団に怯えて暮らしているや県外市外の人から北九州ってヤクザの町というイメージが強いと言われることもある。暴力団そのものをなくすことは出来ないのかもしれないけど新たに暴力団が増えないことが一番の追放になるのではと思う。なぜ暴力団に気を遣うような風習が出来たのか続いているのかが素朴に疑問に思う。追放と言えども何か決定的なことがないと捕まえられない法律そのものも疑問。組織そのものが違法に思える
- 80年代の北九州を知っていますが、あのころは暴力が当たり前の街でしたが、ずいぶん浄化されました。警察官を増やしてください。
- 警察による夜の繁華街の警備や、日中の細かなパトロールなどはずっと継続して行ってほしい。
- 相談窓口が市役所内にある事を知らなかったのも、市政だより等、常にPRが必要と思います。相談後、十分に対応してもらえるのか、不安があります。信頼してほして相談できる様、警察との連携をしっかり行ってほしいです。同時に弁護士等のアドバイスも受けられるサポートが必要と思います。
- 暴力団と聞いたらまず最初に「怖い」という印象が一番です。そしてもし関わりをもったら何をされるかわからないという恐怖心をいっている市民がほとんどではないでしょうか？ですから何かあったら相談窓口がある事をもっとみんなに知ってもらい「守ってもらえる」という安心感をもって市民に浸透していただく様に方法を考えて頂けると大変ありがたいと思っています。
- オレオレ詐欺などが、暴力団の資金源になっていることも多いので、それを防ぐ手だてをもっと強めて欲しい。
- 近くの小、中学校に暴力団の子どもが通学しているが、その学年がとても風紀が乱れていると聞き孫達も関わらないかと不安です。
- 暴力の街というイメージが強いのは、以前は工業の街、炭鉱の街として、労働者が多く気の荒い性格の者が多かったのではないかと？組とか団体に自分をよく委ねる人が多かったと思う。社会(市)が住みよくなる為には、それぞれの人の生活に目を向け細かな支援が必要と思う。
- 家庭内の不和(親子関係・経済的)働き口がない
- 難しい活動だと思いますが、市政の活動と警察の活動のおかげで治安は良くなっていると思います。
- これからも暴力団一掃に尽力してほしい。
- 起訴されても証拠不十分で裁判で無罪判決がよくあるが、指定暴力団の場合は疑わしきは罰せずでなく、即罰するくらいの司法の姿勢があっても良いと思う。
- 暴力団が存在することは怖いことだが、追放運動を行うことにより、逆恨みなど嫌がらせが起こらないか不安である。平和的な解決方法がないか色々考えてみたがなかなか思い浮かばず悩んでいるところである。

IV 全体考察

民事暴力相談センターは、昭和62年10月に暴力団等からの被害を受けた市民や企業が気楽に相談できる行政の窓口として、全国に先駆けて開設した。さらに平成25年4月1日、組織改変により交通事故相談、民事介入暴力相談、犯罪被害者相談、生活環境パトロールを統合して、安全・安心相談センターが発足した。

また、暴力団対策で、福岡県警察本部も平成22年1月に刑事部内にあった組織犯罪対策局を部に格上げし、「暴力団対策部」を発足、「北九州地区暴力団特別捜査室」を「北九州地区暴力団犯罪捜査課」に格上げし、さらに平成25年3月、組織犯罪対策課の中に「保護対策室」を新設し、暴力団の弱体化・壊滅に向けた体制を強化し重点的に取り組んでいる。

さらに、福岡県では平成22年4月に全国初となる罰則規定を盛り込んだ「福岡県暴力団排除条例」を施行し、平成25年6月1日には、暴力団排除に立ち上がり、また立ち上がろうとする事業者を保護するため、特定の事業者に対する暴力団の不当な影響を排除するための措置が追加規定された「改正福岡県暴力団排除条例」が施行され、本市でも平成22年7月に市民が安心して暮らせる社会の実現、社会経済活動の健全な発展に寄与することを目的に「北九州市暴力団排除条例」を施行したところである。

このアンケートでは、本市が県警察、市民と緊密に連携して推進している暴力団対策の市民認知状況及び民事介入暴力や被害相談の状況を調査し、今後の取り組みに生かすため実施した。

その結果は市の相談窓口の認知度では46.4%で前回調査の平成25年度の57.2%から減少し、「全く知らない」は前回の40.6%から53.6%と増加している。暴力追放に向けた取り組みで「テレビや市政だよりによる広報啓発」が86.1%から73.4%、「ポスターやリーフレットによる啓発」が82.3%から81.3%と認知度が下がった。

民事介入暴力の状況では、暴力団から不当な要求を受けたことのあるものはいなかったが、仮に不当な要求を受けた場合の対応では、「他に相談する」が76.1%と圧倒的に多く、「要求を拒否する」が2位で19.6%であった。条件付「要求に応じる」が4.3%で前回は3.6%であることから0.7ポイント増加した。

また、相談相手は「警察」「市の相談窓口」の順になっており、友人や親・親戚などの身の回りの人より、行政機関を頼りにしている姿が見える。

暴力団追放の住民運動への参加意識では、参加協力について肯定的な意見が65.9%と前回調査とほぼ同様で、否定的な意見は19.6%から23.2%と若干増加した。

参加に否定的な理由は、「暴力団が怖いから」が50%、「余計なことに関わりたくないから」が43.8%と前回同様1位、2位であるが、「住民運動に関心がない」が3.1%いることから無関心層が一定数いることが伺える。

もめごとの処理に暴力団を利用することの可否については、「絶対によくないと思う」が84.1%と前回の73.2%から増加している。また、「やむを得ない場合があると思う」が5.1%で前回11.6%から減少しており、暴力団との関わりを容認する市民意識が減少したことが窺える。

暴力団の存在については、暴力団に「資金を提供する者がいるから」「利用する市民がいるから」「一度入ったら抜け出すことが困難だから」などが上位を占め、暴排活動の根幹を理解しているものと思われる。

都市イメージの項目は「まあまあ住みよい街」が69.6%で前回の58%から11.6ポイントと大幅に増加していることから、繁華街の警察官のパトロール増強、防犯カメラの設置等の対策により、銃発砲事件などを防圧しており、街が以前と比べ「非常によくなっている」が前回の9.4%から26.1%と大幅に増加し、「よくなっている」と合わせても68.9%で前回の63.7%から増加している。

暴力団を利用して、もめごとの処理を行う人は「絶対良くない」が84.1%に達しており、暴追に対する市民の理解が進んでいることが窺えた。

また、暴力団に不当な要求を受けた場合、どこに相談するかの問いかけに対し、「市の相談窓口」「市の法律相談」を合わせた指数が58.1%で、「安全・安心相談センター」の認知度を高めるとともに、「北九州市暴力団排除条例」に基づいた暴力団排除の広報、啓発活動の一層の強化が求められる。

【市政モニターに関すること】

市民文化スポーツ局市民部広聴課(TEL:582-2527)

【アンケートに関すること】

市民文化スポーツ局安全・安心相談センター(TEL:582-2427)